鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

PC杭はS-3～S-6を使う

1. 一般事項

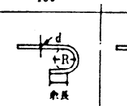
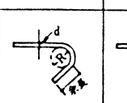
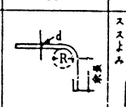
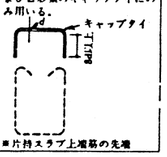
(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d…異形棒鋼の公称直径又は丸鋼の直径　D…部材の成　R…直径
@…間隔　r…半径　℄…中心線　ℓ_o…部材間の内法距離　ho…部材間の内法高さ
ST…あばら筋　HOOP…帯筋　S.HOOP…補強帯筋　φ…直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	備考
図				スラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む工形およびL形状のキャップタイにのみ用いる。 
鉄筋の余長	4 d以上	6 d以上	8 d以上 (*4d以上)	

折曲げ内法寸法Rは　SR24は3d以上、SD30、SD35は4d以上

*片持スラブ上端筋の先端

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状　鉄筋の折曲げ角度90°以下 (現場打ちの柱に適用)

図	使用箇所	鉄筋径d	鉄筋の種類	折曲げ内のりR
	a)帯筋 あばら筋 スパイラル筋	各　種	SR24	3 d以上
			SD30、SD35	4 d以上
	b)スラブ筋 壁筋	φ16、D16以下	各　種	5 d以上
		φ19、D19以上		6 d以上
	c) a)、b)以外の鉄筋	φ28以下、D25以下		6 d以上
		φ32以下、D41以下		8 d以上

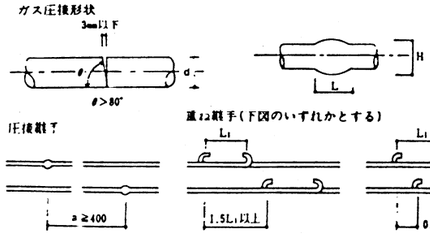
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度の範囲(kg/cm²)	定着の長さ 一般 (L_2)	定着の長さ 下ば筋 (L_3) 小梁	定着の長さ 下ば筋 (L_3) スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ (L_1)
SR 24	210 以上 270 未満	35 d フックつき	25 d フックつき	15cm フックつき	35 d フックつき
	135 以上 210 未満	45 d フックつき			45 d フックつき
SD 30 SD 35	210 以上 270 未満	35 d または 25 d フックつき	25 d または 15 d フックつき	10 d かつ 15cm以上	40 d または 30 d フックつき
	135 以上 210 未満	40 d または 30 d フックつき			45 d または 35 d フックつき
SD 40	210 ～240	40 d	—		45 d

継　手

1. 末端のフックは、定着および継手の長さには含まれない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる材の継手は、細い方の材の継手長さとする
4. 直径が28mm以上の場合は、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



H＝1.4d～1.6d
L＝0.9d～1.2d
偏心はd/10以下

直ね継手(下図のいずれかとする)

(4) かぶり厚さ

かぶり厚さの最小値(JASS 5.10.1表)

構造部分の種別		コンクリートの種類	普通コンクリート	軽量コンクリート
土に接しない部分	床スラブ・屋根スラブ・耐力壁以外の壁	仕上げあり	20 (30)	20 (30)
		仕上げなし	30 (40)	30 (40)
	柱 はり 耐力壁	屋内 仕上げあり	30 (40)	30 (40)
		屋内 仕上げなし	30 (40)	30 (40)
		屋外 仕上げあり	30 (40)	30 (40)
		屋外 仕上げなし	40*1 (50)	40 (50)
	擁壁		40 (50)	40 (50)
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁・布基礎立上り部		40 (50)	50*2 (60)
	基礎・擁壁		60 (70)	70*2 (80)

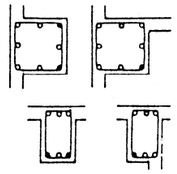
(注) *1. コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる
*2. 軽量コンクリート1種および2種に適用する
*3. ( )内の値は日本建築学会の配筋指針案による設計かぶり厚さの標準値である
( )内の値を採用する

(5) 鉄筋のあき

異形鉄筋1.7d以上(鉄筋間隔2.7d以上)　丸鋼1.5d以上(鉄筋間隔2.5d以上)
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

(6) 鉄筋のフック(a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

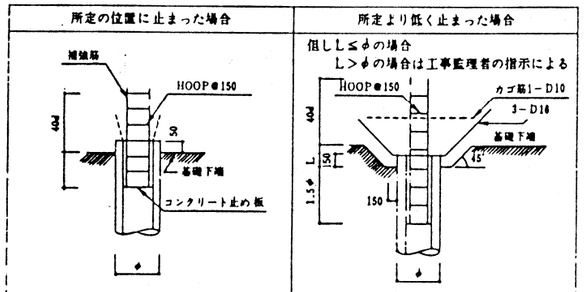
a. 丸鋼
b. あばら筋、帯筋
c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所



上図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

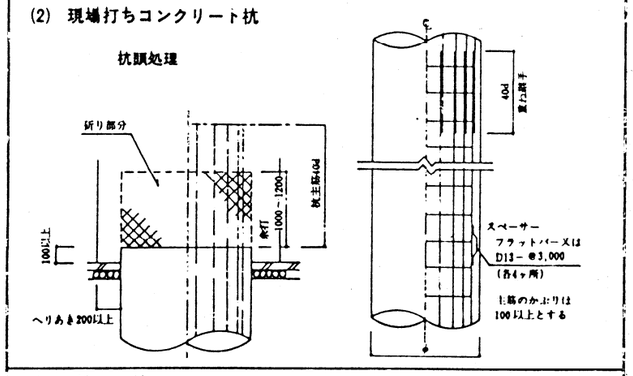
3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。)

(1) PC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う



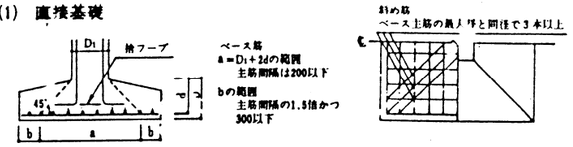
杭　径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6－D13	8－D13	10－D13	8－D16	10－D16
HOOP	D10 @150				

(2) 現場打ちコンクリート杭

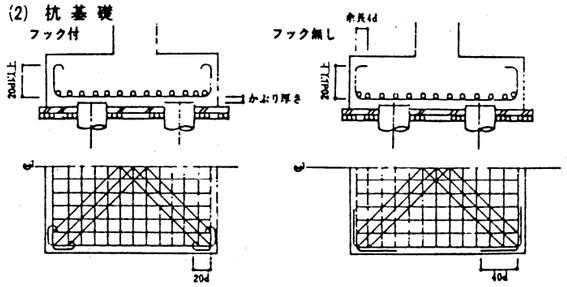


4. 基　礎

(1) 直接基礎

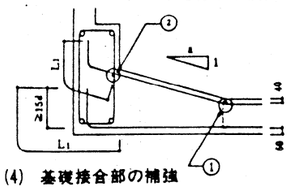


(2) 杭基礎



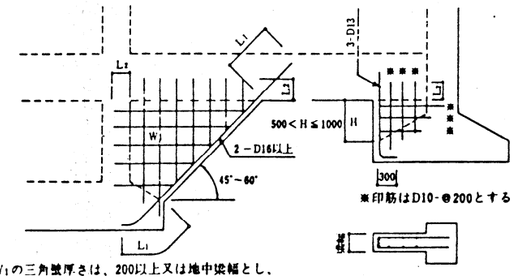
(3) べた基礎

ハンチを付けた場合(a≧3)



1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上筋と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し土のある場合は40を60とする

(4) 基礎接合部の補強

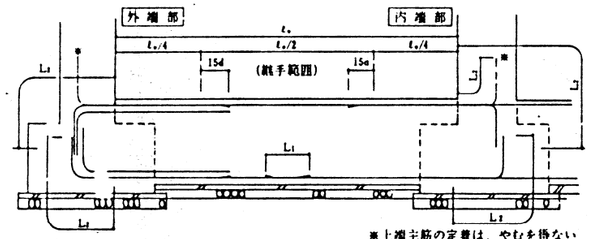


W₁の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう

H≦500は※印筋は不用とする

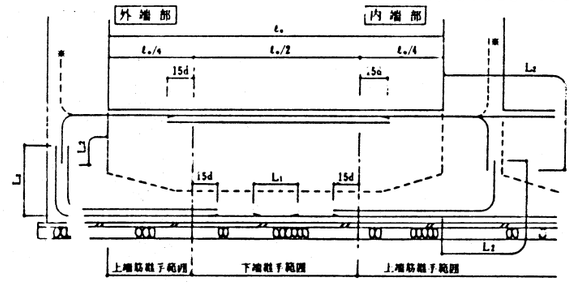
5. 地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



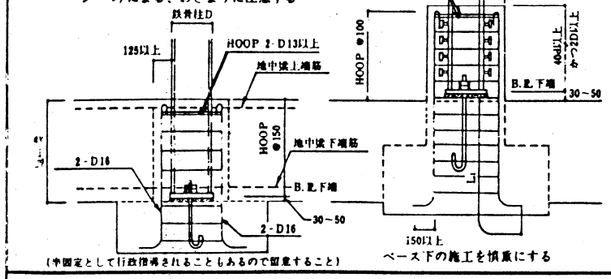
(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)

※上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる



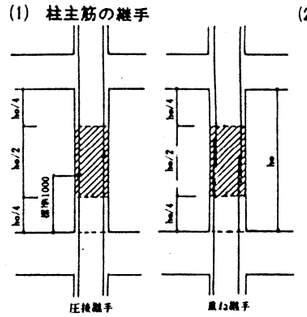
(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

地中梁の主筋、スタッドボルト(スタッドジベル)による、おさまりに注意する

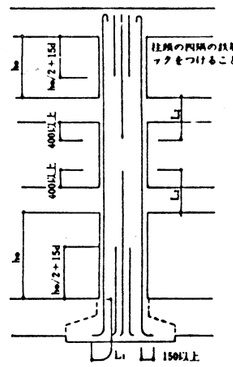


6. 柱

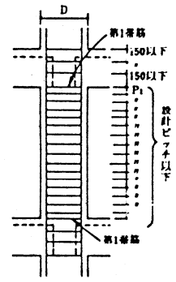
(1) 柱主筋の継手



(2) 柱主筋の定着

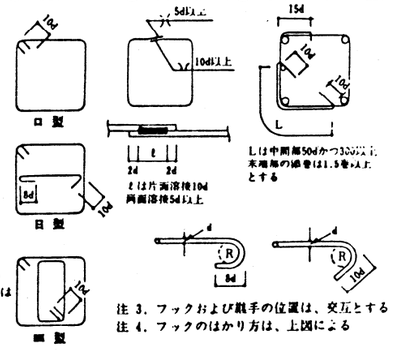


(3) 帯　筋



注 1. 第1帯筋は、梁づらに入れる
注 2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける

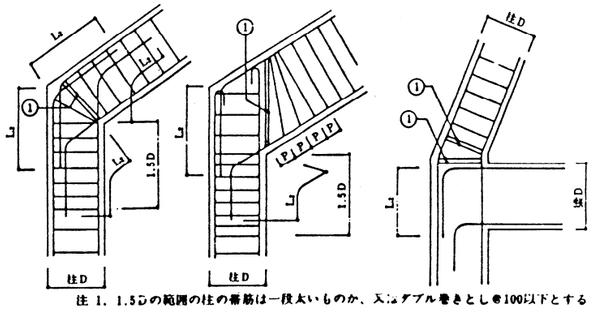
㋑H型(タガ型)　㋺W型(溶接型)　㋩S型(スパイラル型)



注 3. フックおよび継手の位置は、交互とする
注 4. フックのはかり方は、上図による

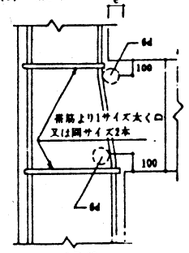
(4) 斜め柱・斜め梁

○柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一　○柱幅と斜材幅が異る　○柱脚で斜材となる

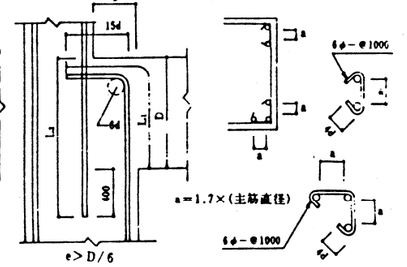


注 1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする
注 2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



(仮称) プリオ101新築工事		
(株)観光都市計画事務所	S－1	

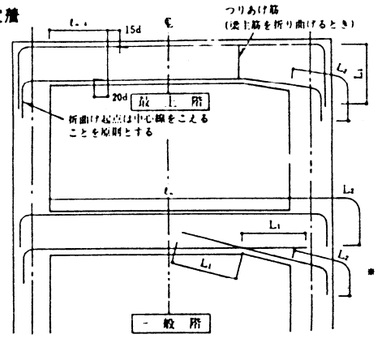
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

L＝鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2－(3)による。

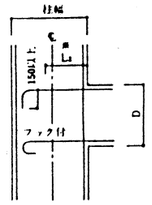
7. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定着

ⓐ大梁

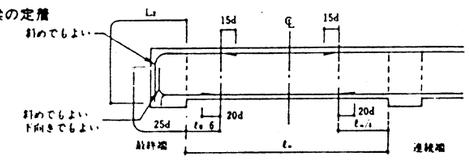


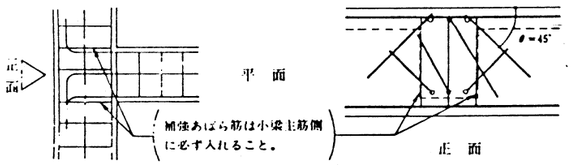
柱幅が大きい場合



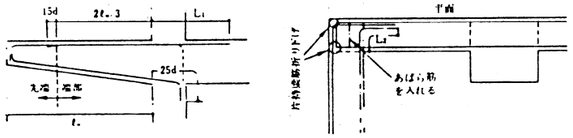
＊ 柱幅が大きくて、直線部だけでL₂がとれる場合でも柱中心線をこえて中間折曲げテール長150以上又は180°フック付とする

ⓑ小梁の定着

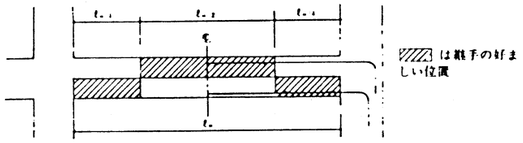




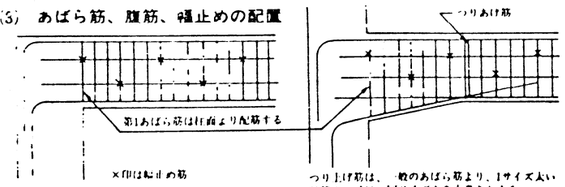
ⓒ片持梁の定着



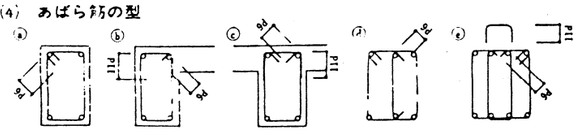
(2) 大梁主筋の継手



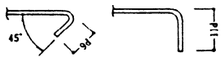
(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



(4) あばら筋の型

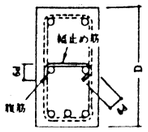


(イ) 原則として(ⓐ)のフック先曲げとする。逆L型梁で(ⓑ)
T型梁で(ⓒ)又は(ⓑ)とすることができる。
(ロ) 原則として3本組は(ⓓ) 4本組は(ⓔ)とする。
(ハ) フックの位置は(ⓐ)にあっては交互、(ⓑ)にあってはスラブ側とする。
(ニ) フックのはかり方は下図とする。



(5) 幅止め筋の本数、加工

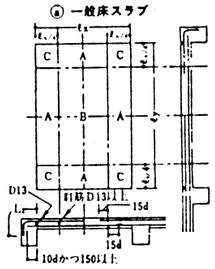
腹筋	D＜600 不要	
	600≦D＜900	2－D10(9φ) 1段
	900≦D＜1200	4－D10(9φ) 2段
	1200≦D	D10(9φ)@300以内
幅止め筋	D10(9φ)@1000以内で割り付ける	



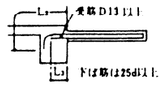
8. 床板

(1) 定着および継手

ⓐ一般床スラブ



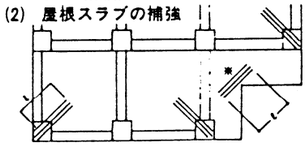
ⓑ片持ちスラブ



継手位置は原則として下表による。

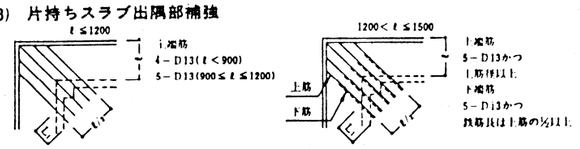
		標準継手位置
上ば筋	短辺方向	B
	長辺方向	B
下ば筋	短辺・長辺方向	A C

(2) 屋根スラブの補強

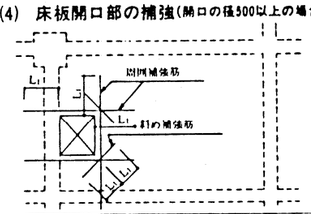


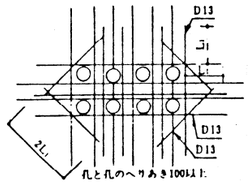
ⓐ補強筋は各3－D13 又はスラブ主筋の間一隅でℓ＝1,500とし、上端筋の下に配筋する
ⓑ＊の個所(入隅)は各階補強する

(3) 片持ちスラブ出隅部補強



(4) 床板開口部の補強(開口の径500以上の場合)

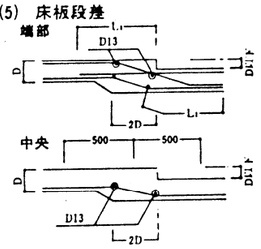


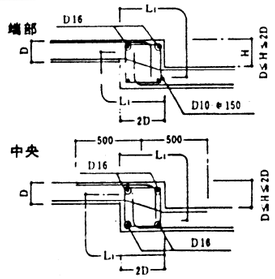


床板厚さD	周囲	斜め
D≦150	各2－D13	各1－D13
150＜D≦200	各2－D13	各2－D13
200＜D≦300	各2－D19	各2－D16

注) 設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

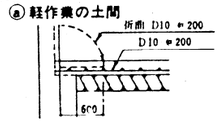
(5) 床板段差



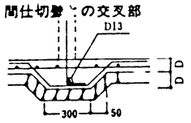


(6) 土間コンクリート

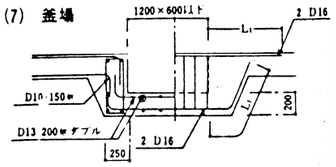
ⓐ軽作業の土間



ⓑ間仕切壁との交叉部



(7) 釜場



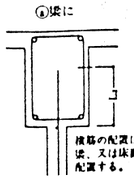
(8) 打継ぎ補強

- 設計配筋間隔の½ピッチ 長さ2L₁以上
- 無筋部分D10 @200 長さ800以上

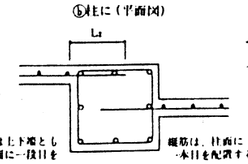
9. 壁

(1) 定着

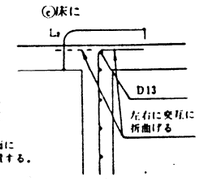
ⓐ梁に



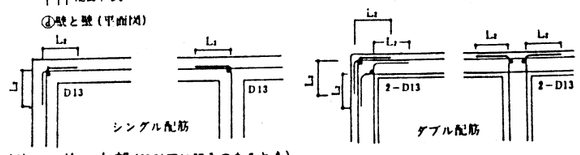
ⓑ柱に(平面図)



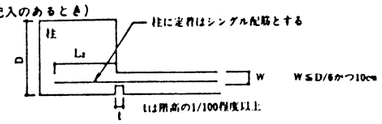
ⓒ床に



ⓓ壁と壁(平面図)

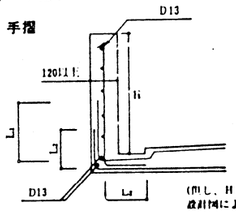


(2) スリット部(設計図に記入のあるとき)

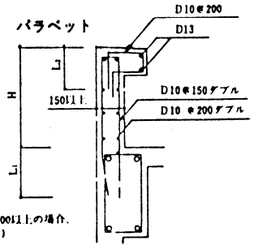


(3) 手摺、パラペット

手摺



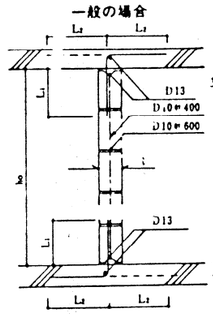
パラペット



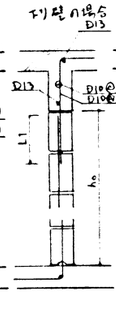
(但し、H＞800以上の場合、設計図による)

(4) コンクリートブロック帳壁

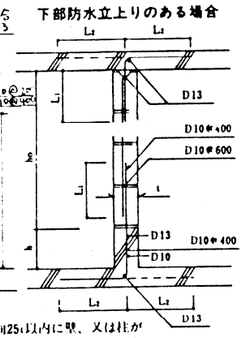
一般の場合



やり壁の場合

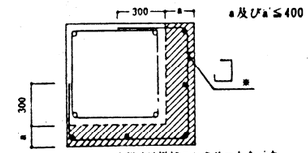


下部防水立上りのある場合

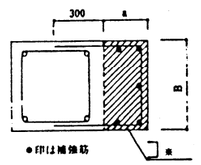


注) ho≦25tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
注) hはコンクリートブロック段数割寸法とする。但し、200≦h≦400
注) 継手部は必ずモルタルをてん充すること

10. 柱、梁増打コンクリート補強 (使用するときには設計者、及び工事監理者と打合せのこと)



ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

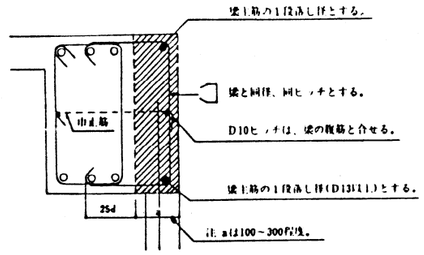


＊印は補強筋

ハッチ部分の面積A㎠	A＜500	500≦A＜1000	1000≦A＜1500
補強タテ筋	3－D16	4－D16	6－D16

＊柱と同様、同ピッチとする。

(2) 梁

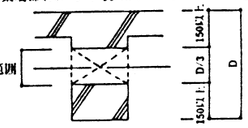


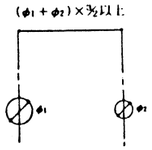
ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

11. 梁貫通孔補強

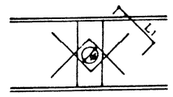
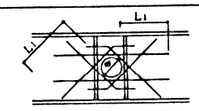
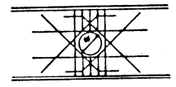
(1) 設置可能範囲

梁端部(スパンℓ/10以内かつ2D以内)は避ける



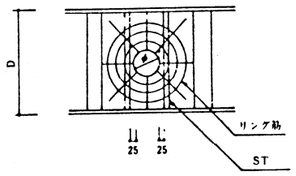


(2) 鉄筋形標準配筋

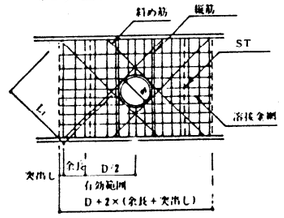
80＜φ≦100	折筋 2－(2－D13) 縦筋 ST 2－D13	
100＜φ≦150	折筋 2－(2－D13) 斜筋 4－(2－D13) 縦筋 ST 4－D13 横筋 2－(2－D13)	
150＜φ≦250	斜筋 4－(2－D13) 縦筋 ST 2－D13 横筋 2－(2－D13) 上下縦筋 ST 3－D13	

(3) 既製形(使用するときには、設計者及び工事監理者と打合せのこと)

〔1〕リング型

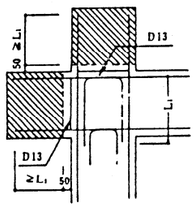


〔2〕金網型

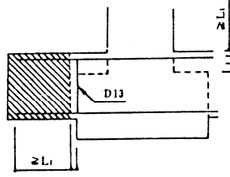


12. 増築予定

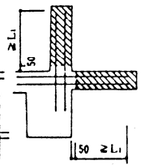
(1) 柱、梁



(2) 地中梁

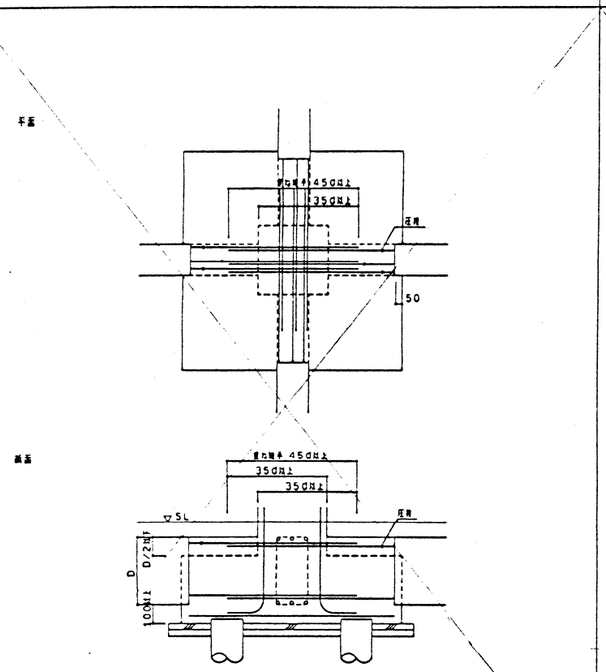


(3) 床版、壁



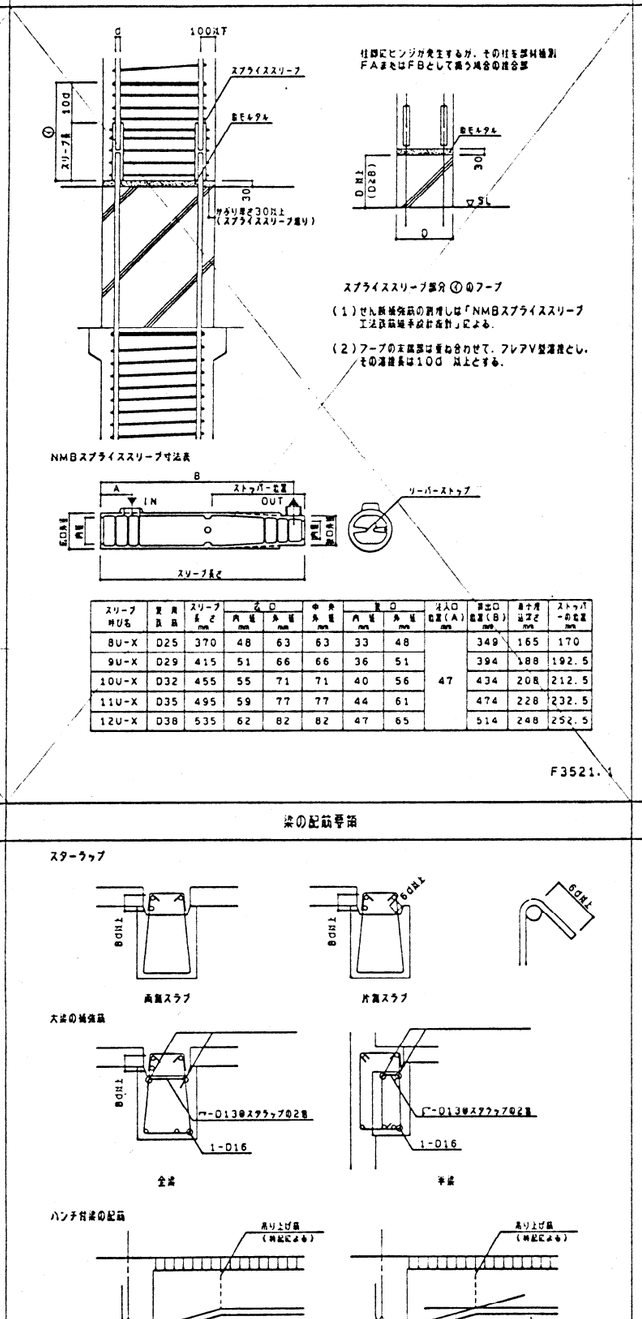
(仮称)プリオ101新築工事	project No.	date
	scale	drawn by
(株)観光都市計画事務所	S－2	

基礎梁の定着要領



F3511.1

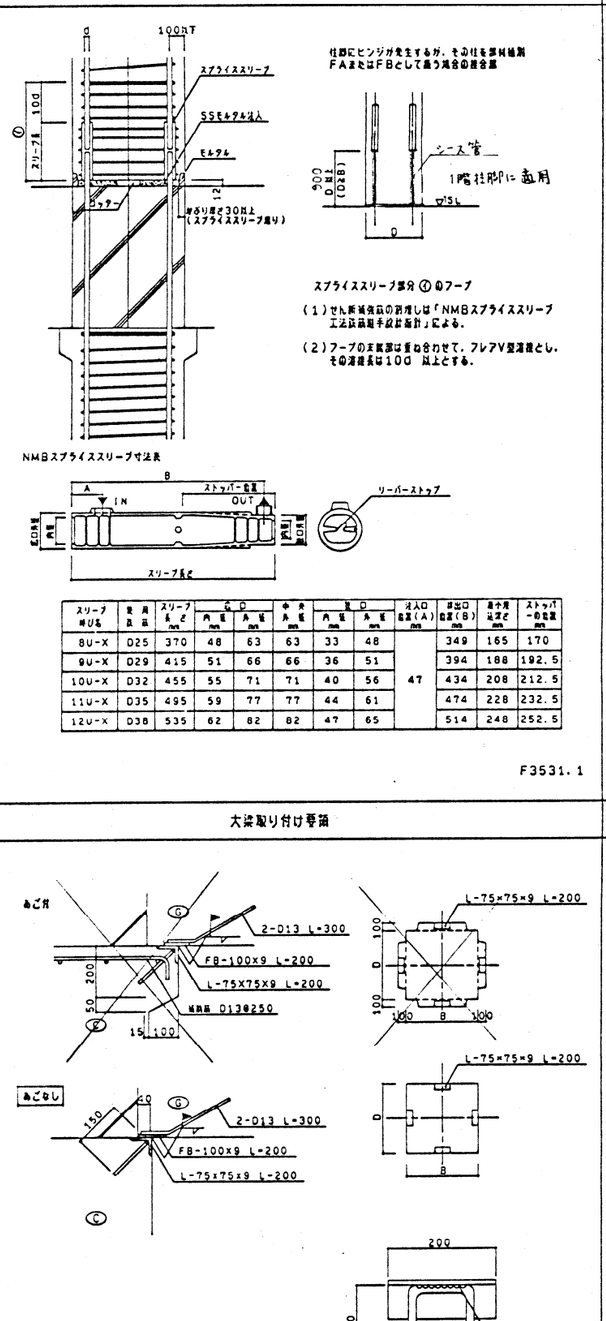
柱脚部の継手要領（敷モルタル方式）



スリーブ呼び名	使用鉄筋	スリーブ長さ mm	孔D 内径 mm	孔D 外径 mm	中央外径 mm	筒D 内径 mm	筒D 外径 mm	注入口位置(A) mm	排出口位置(B) mm	最小突出寸法 mm	ストッパーの位置 mm
8U-X	D25	370	48	63	63	33	48	47	349	165	170
9U-X	D29	415	51	66	66	36	51		394	188	192.5
10U-X	D32	455	55	71	71	40	56		434	208	212.5
11U-X	D35	495	59	77	77	44	61		474	228	232.5
12U-X	D38	535	62	82	82	47	65		514	248	252.5

F3521.1

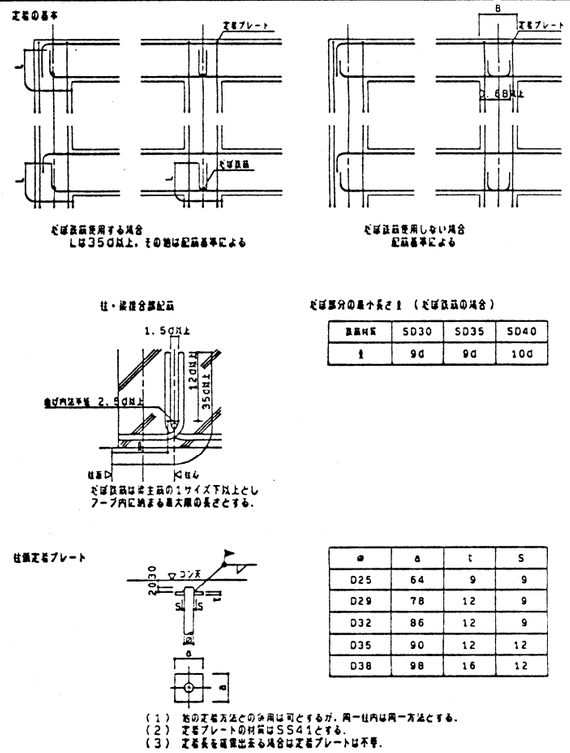
柱脚部の継手要領（グラウト方式）



スリーブ呼び名	使用鉄筋	スリーブ長さ mm	孔D 内径 mm	孔D 外径 mm	中央外径 mm	筒D 内径 mm	筒D 外径 mm	注入口位置(A) mm	排出口位置(B) mm	最小突出寸法 mm	ストッパーの位置 mm
8U-X	D25	370	48	63	63	33	48	47	349	165	170
9U-X	D29	415	51	66	66	36	51		394	188	192.5
10U-X	D32	455	55	71	71	40	56		434	208	212.5
11U-X	D35	495	59	77	77	44	61		474	228	232.5
12U-X	D38	535	62	82	82	47	65		514	248	252.5

F3531.1

柱・梁の定着要領



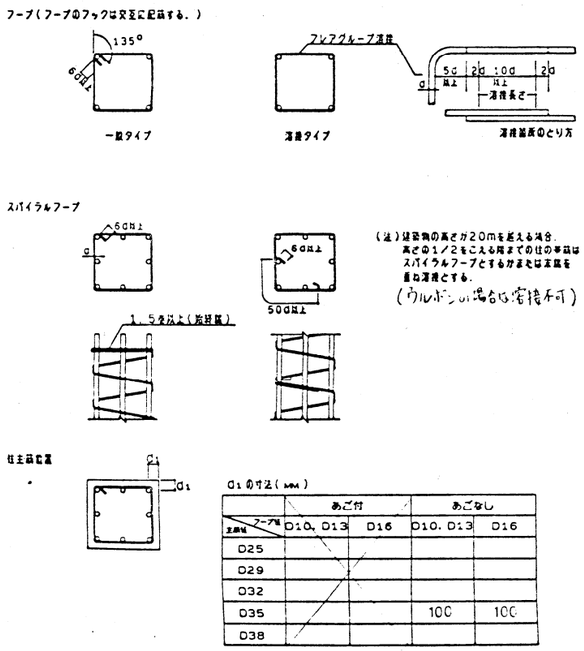
鉄筋材質	SD30	SD35	SD40
ℓ	9d	9d	10d

φ	a	t	S
D25	64	9	9
D29	78	12	9
D32	86	12	9
D35	90	12	12
D38	98	16	12

(1) 他の定着方法との併用は可とするが、同一柱内は同一方法とする。
(2) 定着プレートの材質はSS41とする。
(3) 定着長を確保出来る場合は定着プレートは不要。

F3541.1

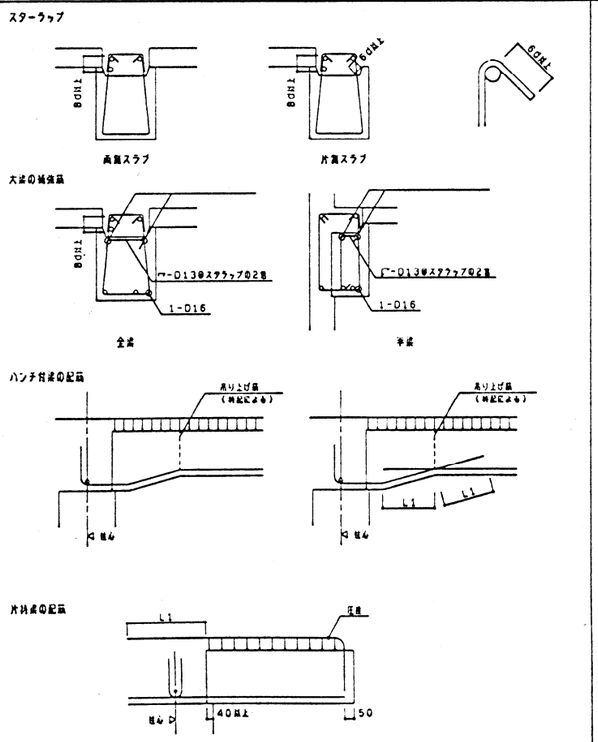
柱の配筋要領



	あご付		あごなし	
主筋径 \ フープ径	D10, D13	D16	D10, D13	D16
D25				
D29				
D32				
D35			100	100
D38				

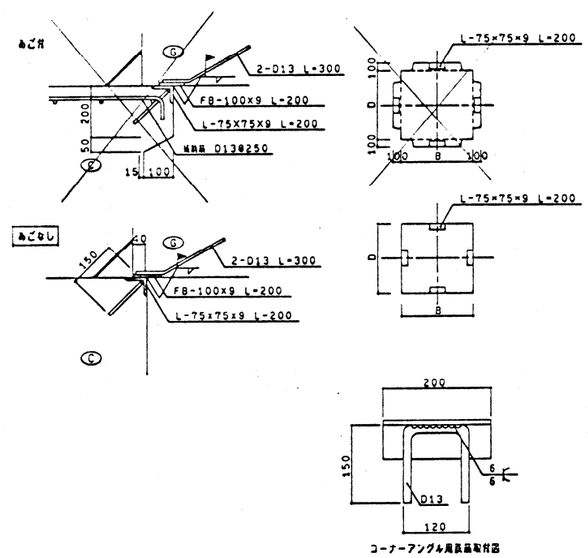
F3551.1

梁の配筋要領



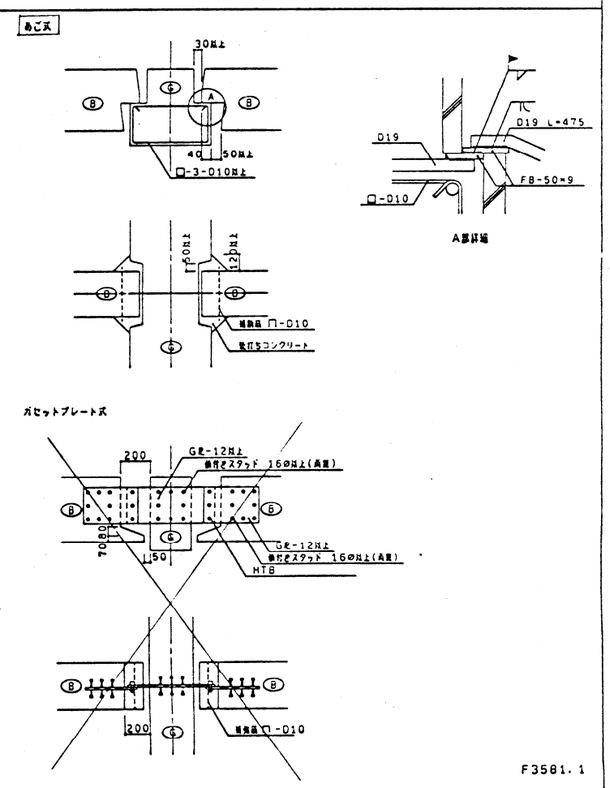
F3561.1

大梁取り付け要領



F3571.1

大梁・小梁接合要領

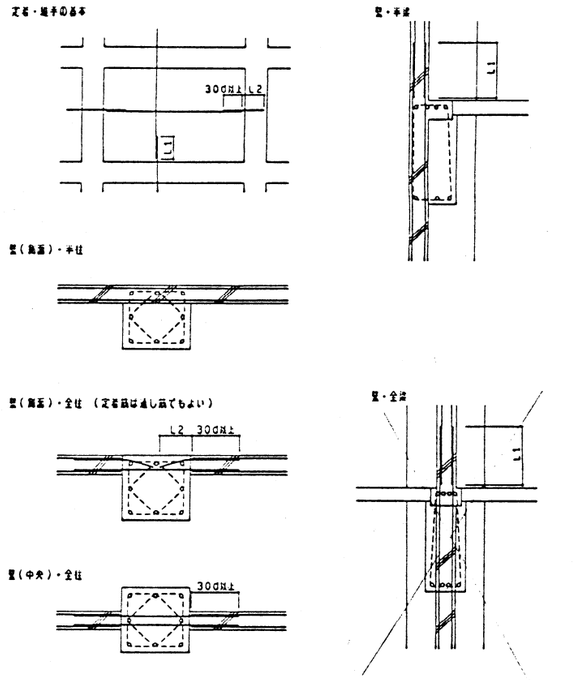


F3581.1

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

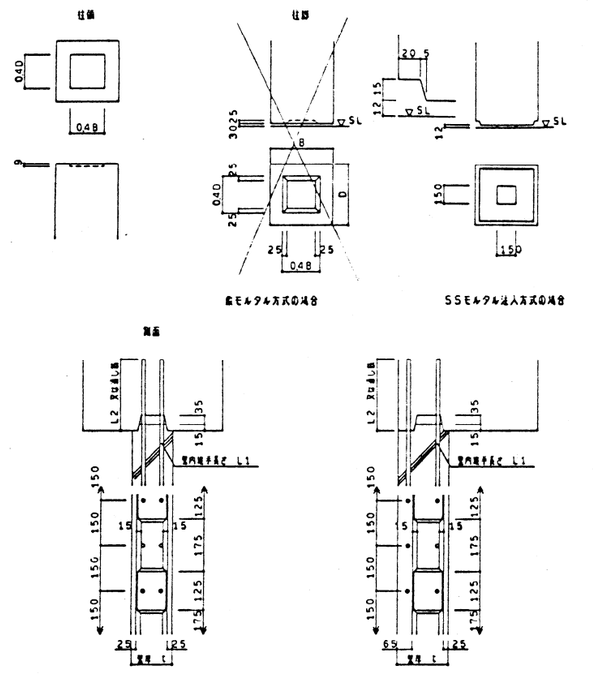
(仮称)プリオ101新築工事		project no	date
RPC 基準図 (1)		scale	drawn by
㈱観光都市計画事務所	S－3		

壁の定着・継手要領



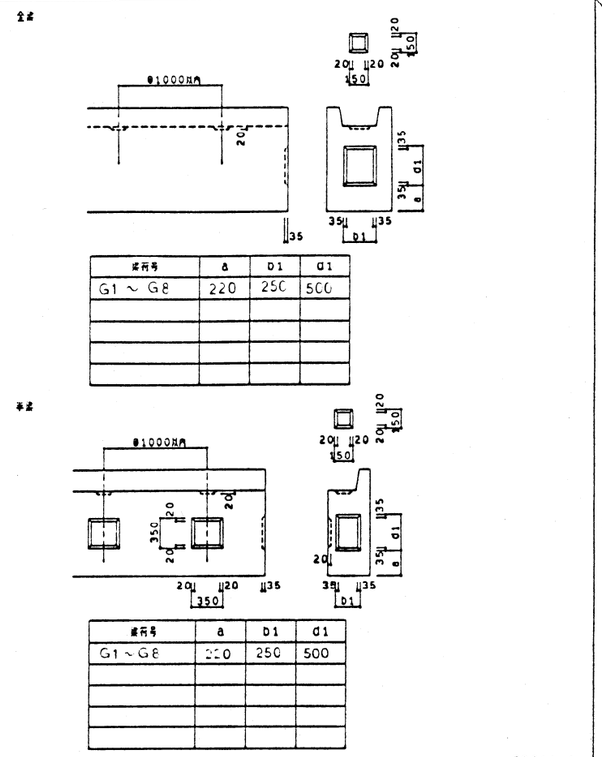
F3591.1

柱のコッター



F3601.1

大梁のコッター

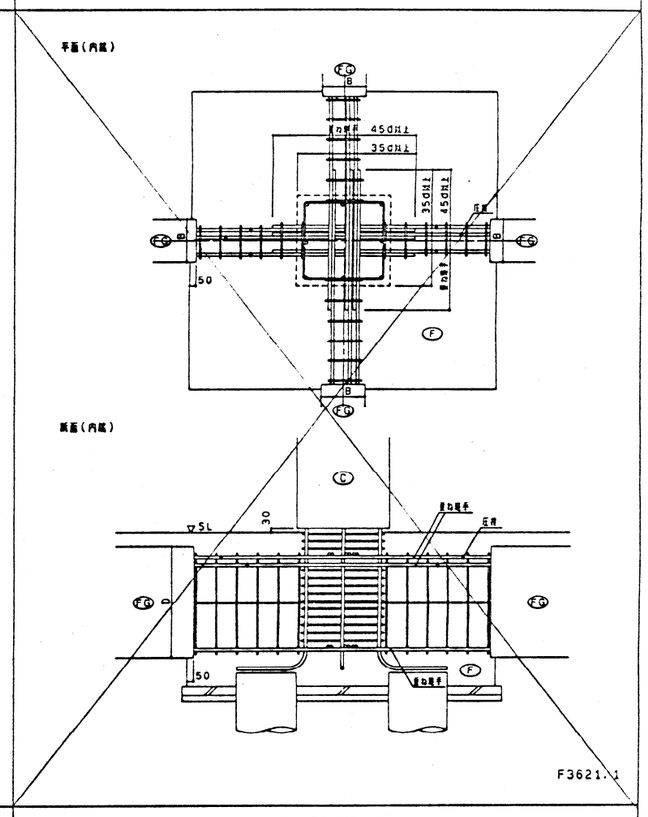


梁符号	a	D1	d1
G1 ～ G8	220	250	500

梁符号	a	D1	d1
G1 ～ G8	220	250	500

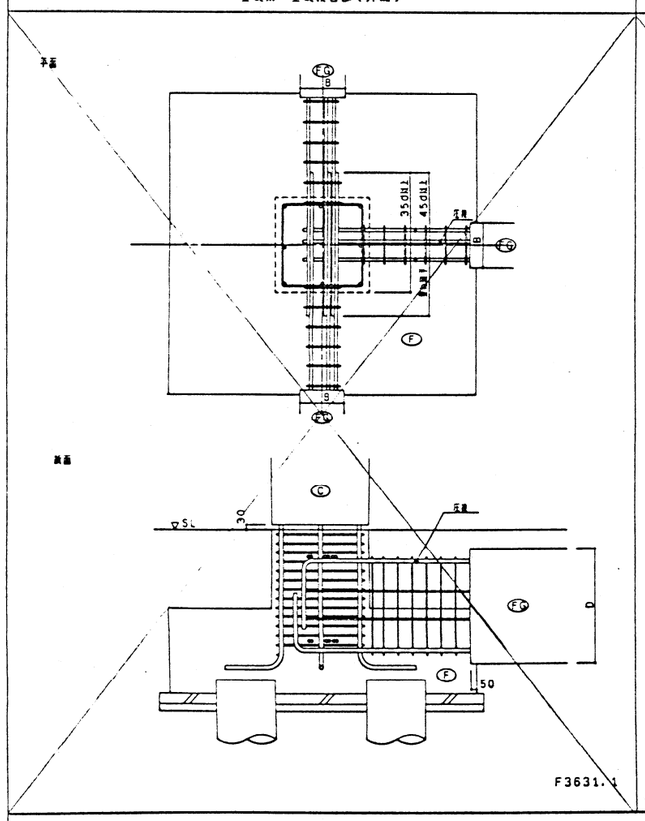
F3611.1

基礎梁・基礎接合部(内鉄)



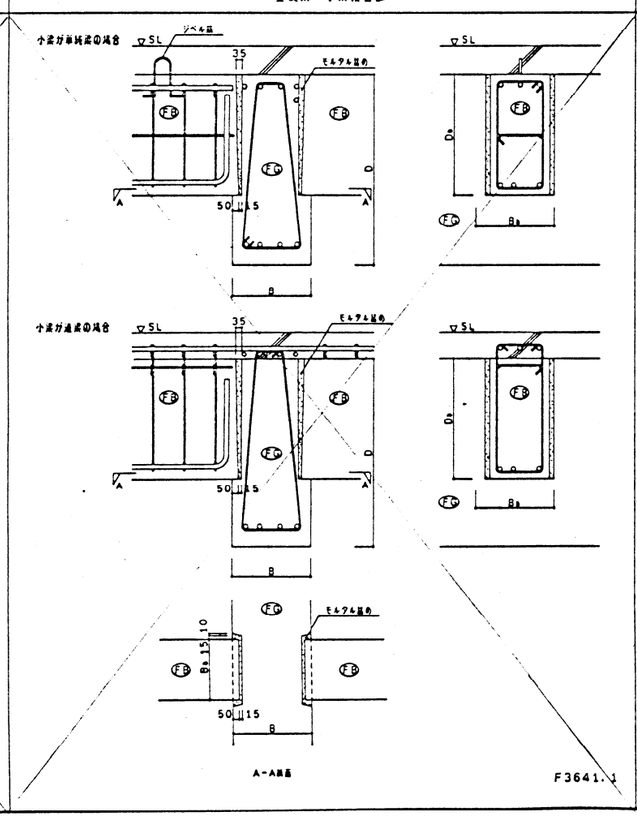
F3621.1

基礎梁・基礎接合部(外鉄)



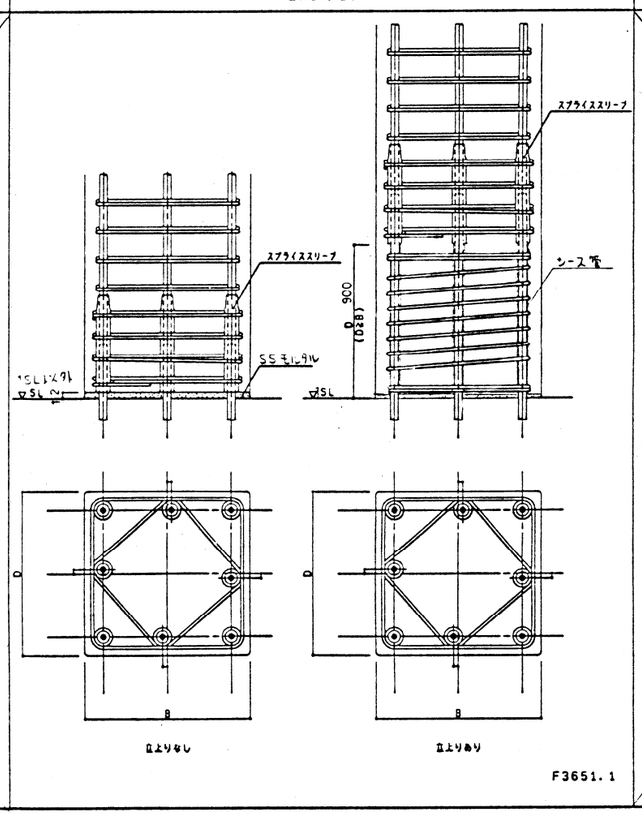
F3631.1

基礎梁・小梁接合部



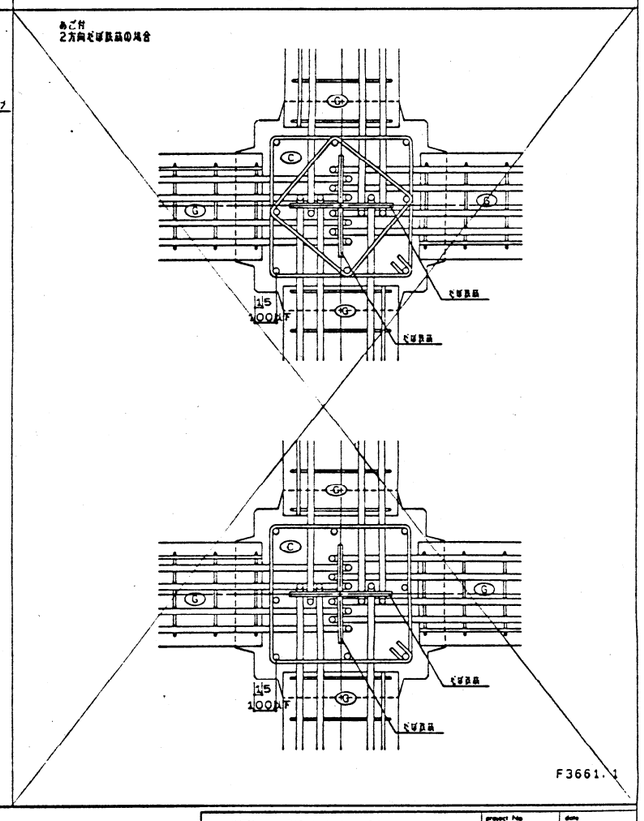
F3641.1

柱脚部の継手



F3651.1

柱・梁接合部(平面)



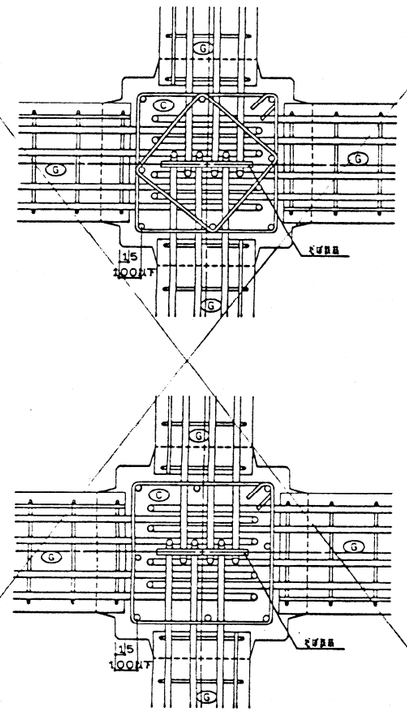
F3661.1

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

(仮称)プリオ101新築工事	project file	date
RPC 基準図 (2)	scale	drawn by
(株)観光都市計画事務所	S-4	

柱・梁接合部（平面）

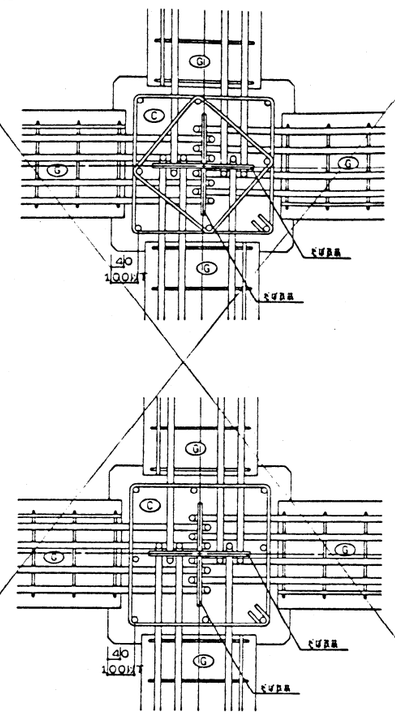
あごなし
1方向そぼ筋の場合



F3671.1

柱・梁接合部（平面）

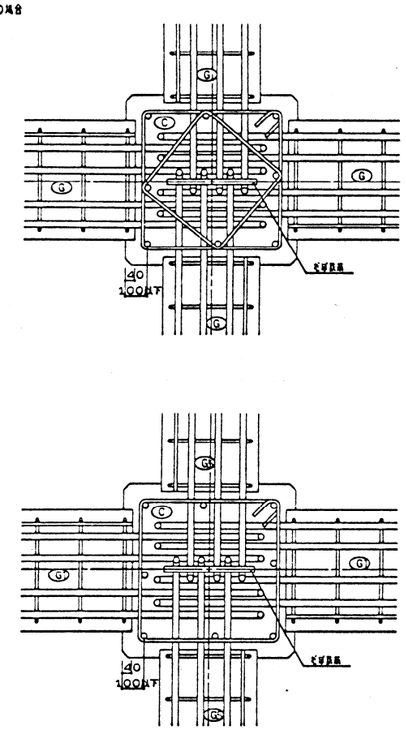
あごなし
2方向そぼ筋の場合



F3681.1

柱・梁接合部（平面）

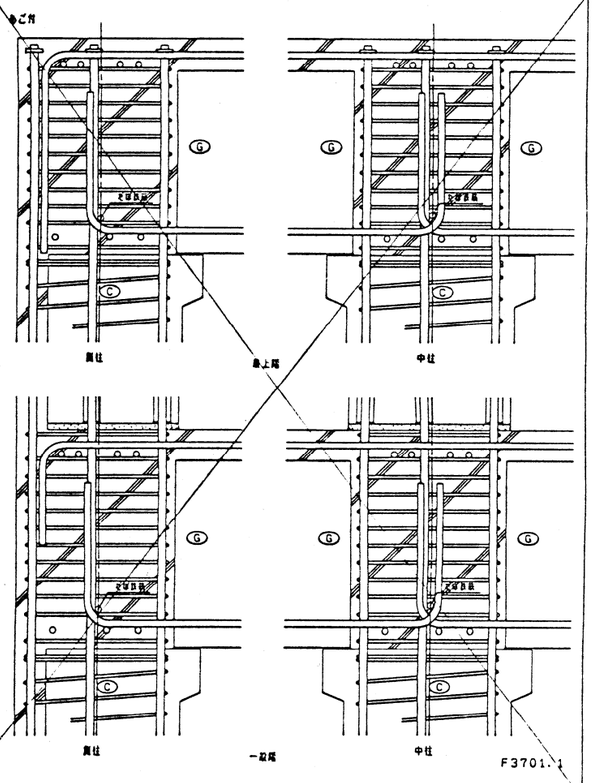
あごなし
1方向そぼ筋の場合



F3691.1

柱・梁接合部（断面）

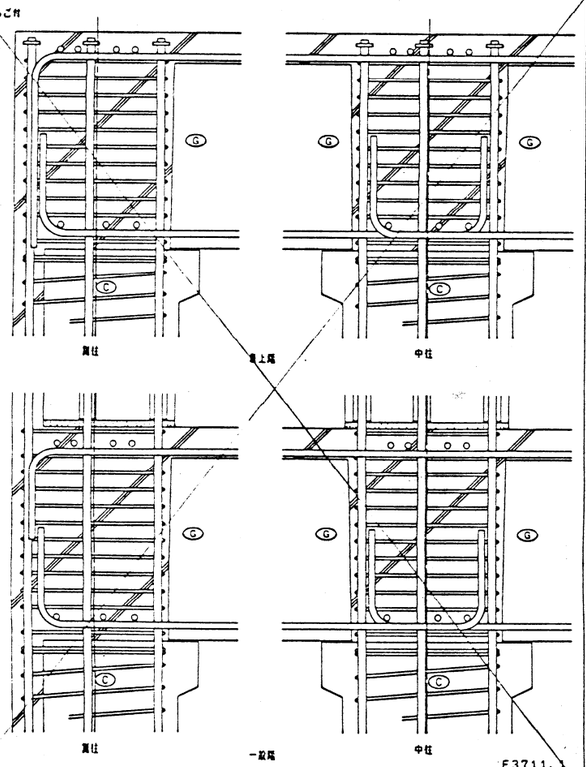
あご付



F3701.1

柱・梁接合部（断面）

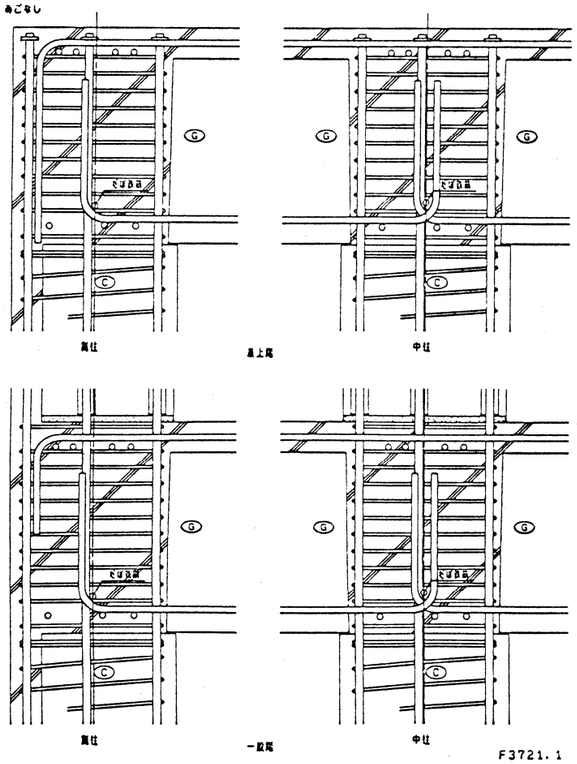
あご付



F3711.1

柱・梁接合部（断面）

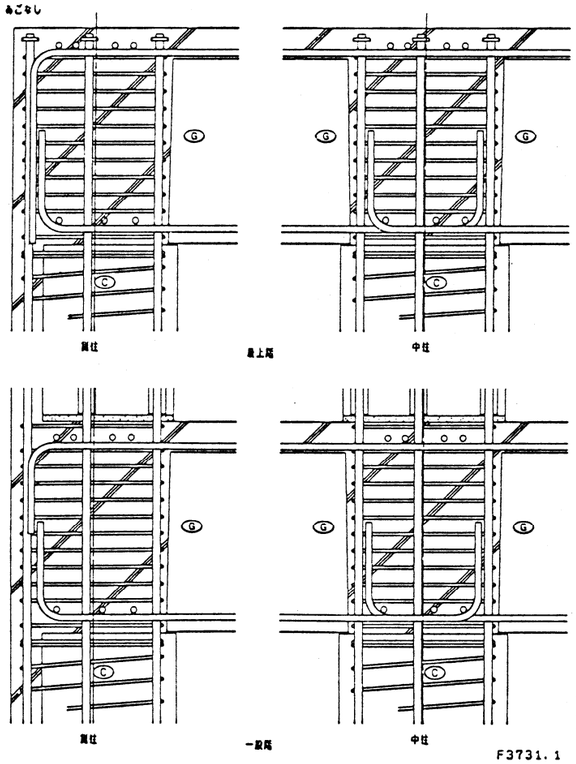
あごなし



F3721.1

柱・梁接合部（断面）

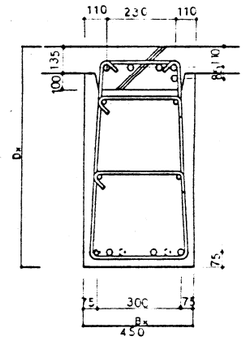
あごなし



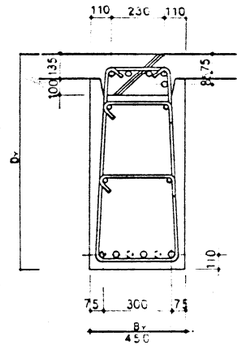
F3731.1

大梁断面図

断面
X方向
（G1代）



断面
Y方向
（G5代）

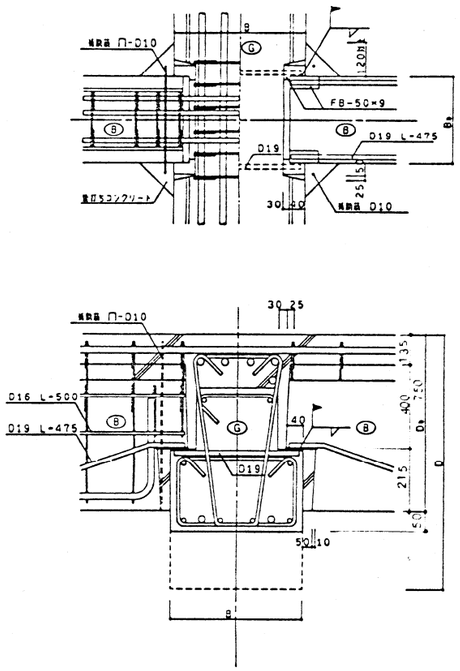


F3741.1

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

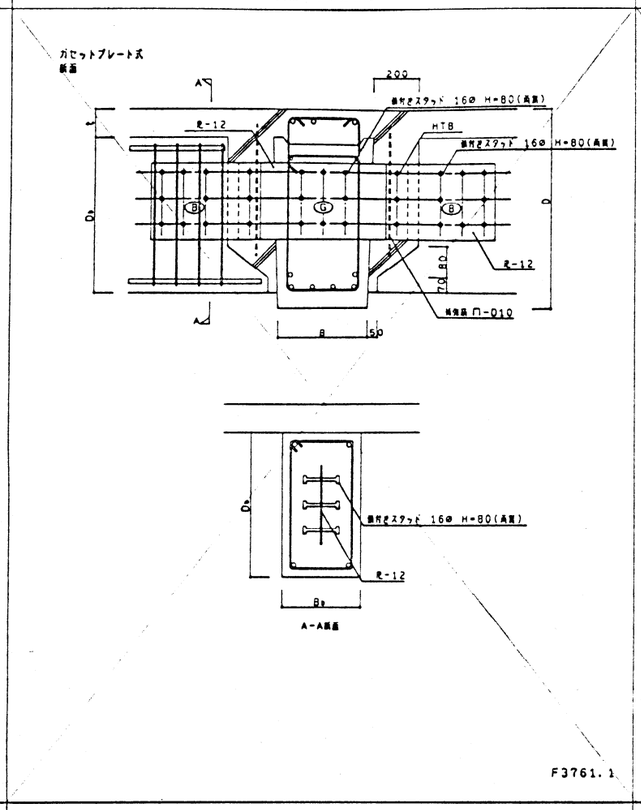
（仮称）プリオ101新築工事	project No	date
RPC 基準マ （3）	scale	drawn by
㈱観光都市計画事務所	S－5	

大梁・小梁接合部



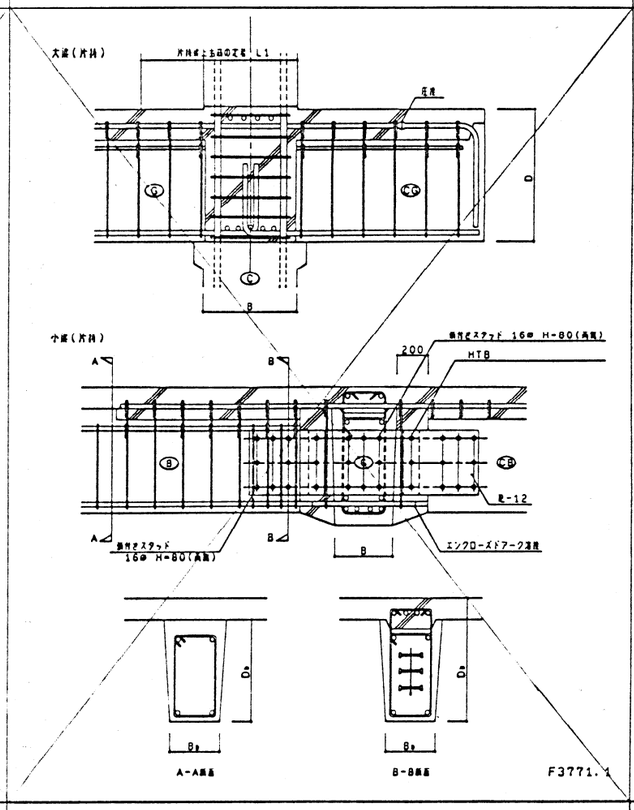
F3751.1

大梁・小梁接合部



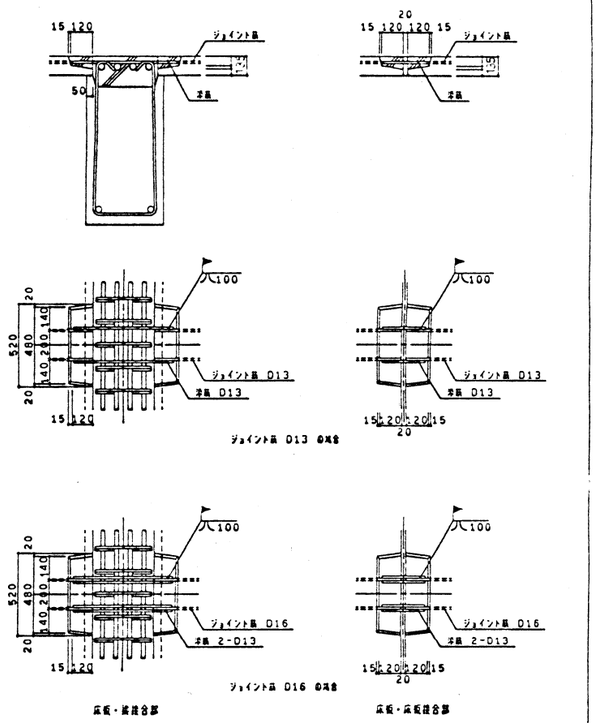
F3761.1

片持梁



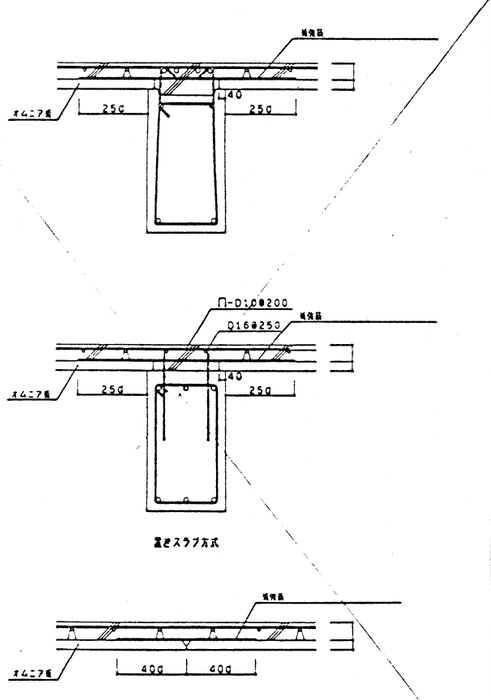
F3771.1

PC床板接合部



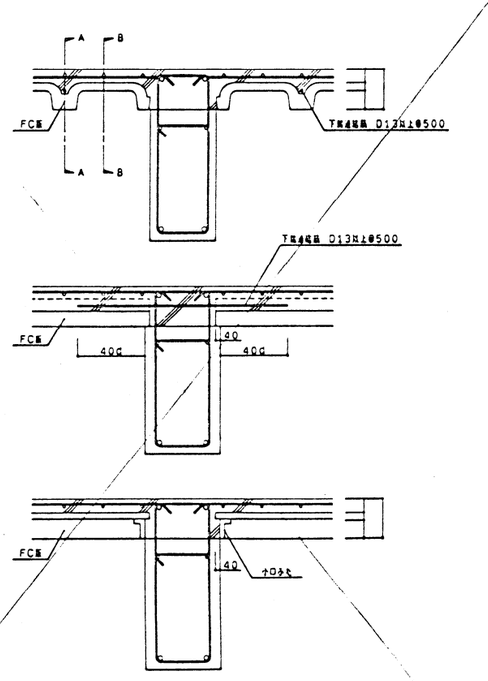
F3781.1

オムニア床板接合部



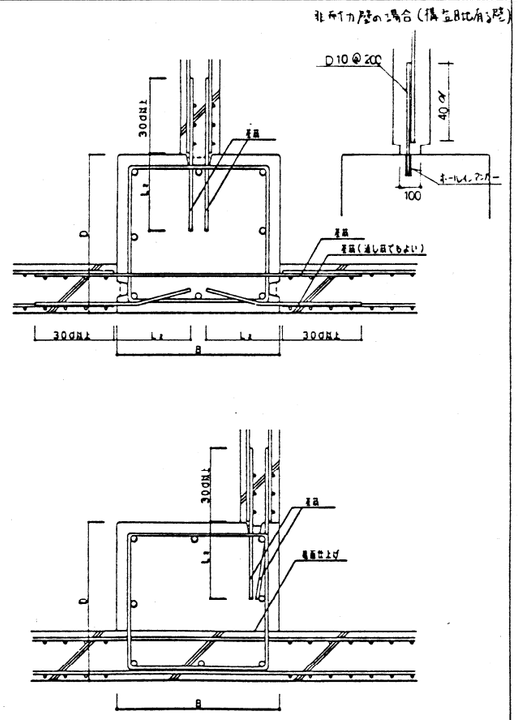
F3791.1

FC版スラブ接合部



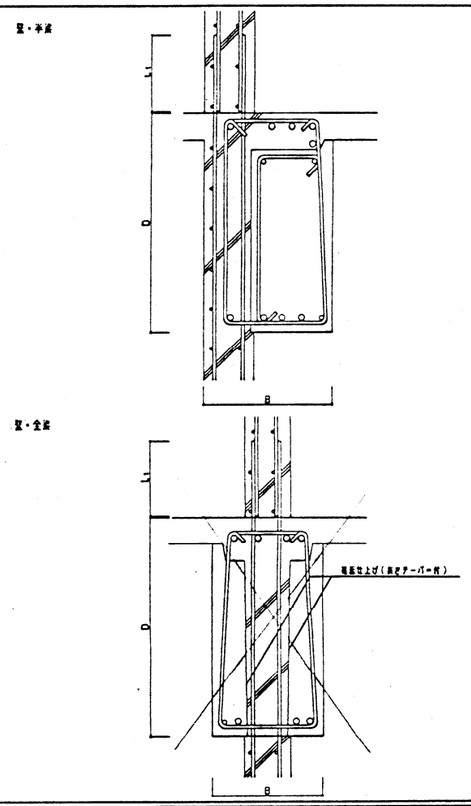
F3801.1

壁・柱接合部



F3811.1

壁・梁接合部



F3821.1

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

(仮称) プリオ101新築工事	project no	date
FPC 基準図 (4)	scale	drawn by
㈱観光都市計画事務所	S−6	

MAT 床伏図 1:200

特記なき限り

壁 W20

[illegible] ①~②間 FS5 他は FS1

[illegible] 盛土部 建築基準値 200°

[illegible] 流入部 建築基準値 35°

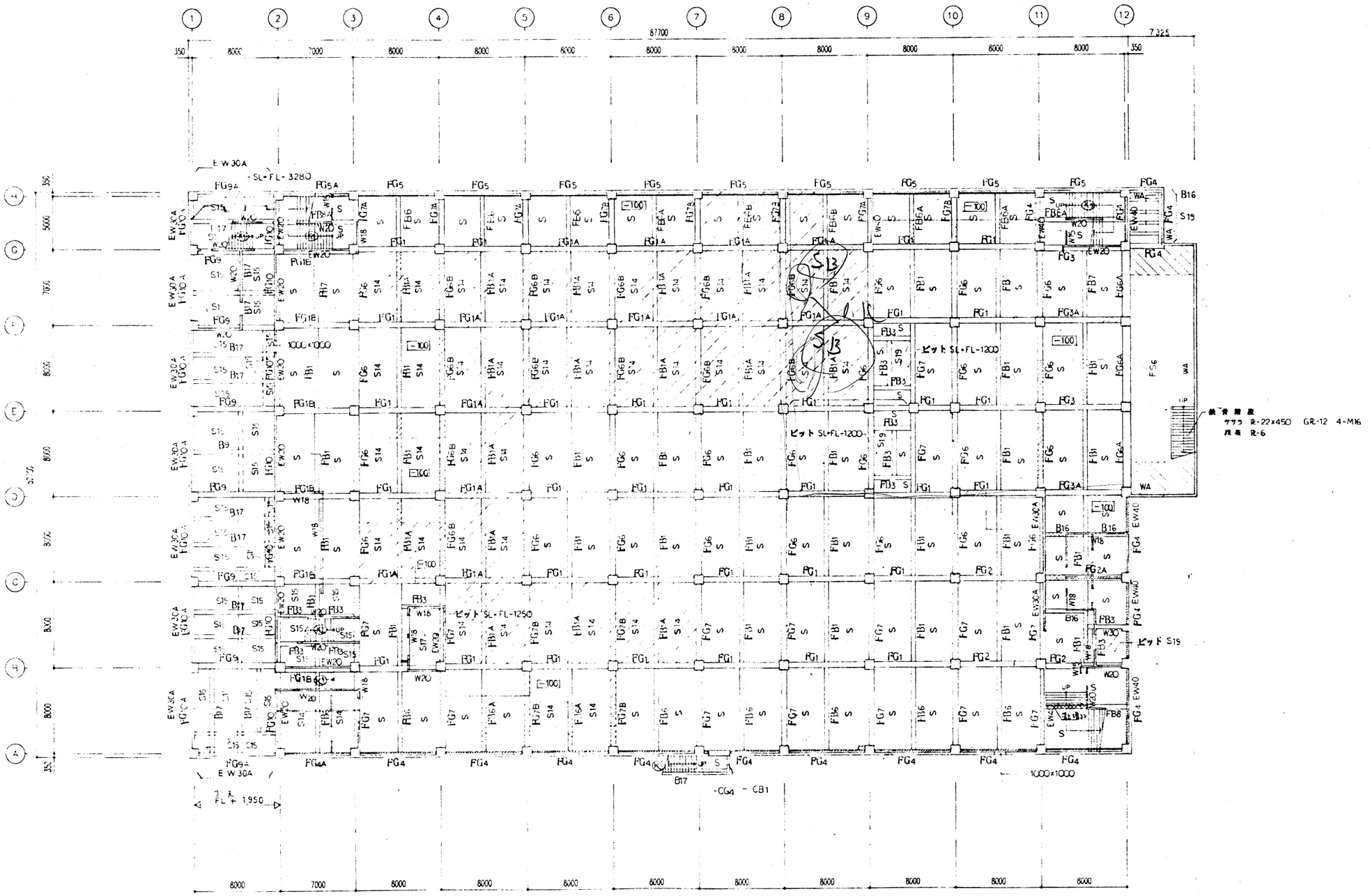
[illegible] 人通口 450×450

注記 FS5は[illegible]方向を主筋とする

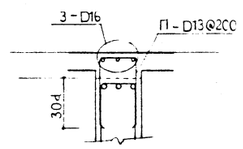
地盤仕様		
コンクリート	設計基準強度	24.0 N/mm² (SF18(mm)) 但し B1FL以下は 210 kg/cm² (SF15(cm))
鉄筋	SD40	異形鉄筋 D10 ~ D16 / 異形鉄筋 D19 ~ D29 / 異形鉄筋 UDm D32
鉄骨	柱脚部 SS41 / 柱 F10T (M=0.4N)	柱脚部の柱脚 下部柱脚は柱脚 (柱脚)は柱脚
地盤	長期許容応力度	GL- 7.2 M f_a= 20 t/m²

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

(仮称) プリオ101新築工事	project No	date
MAT 床伏図	scale 1:200	drawn by
㈱観光都市計画事務所	S－7	



B1 基礎梁伏図 1:200



特記なき限り

SL=FL±0

スラブ … S13

壁 … EW30

CB15

…部は SL=FL-250

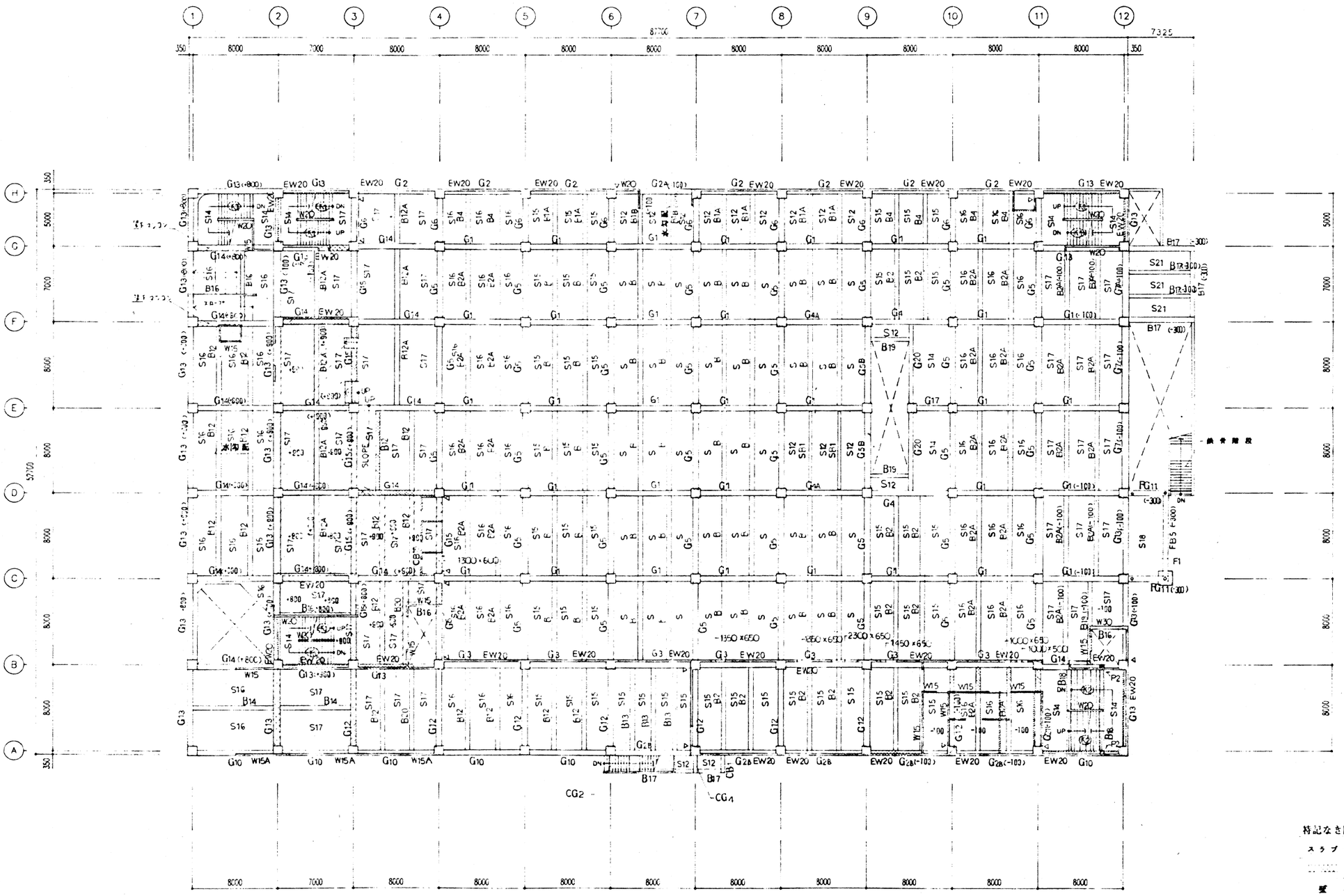
…一部はFS6 梁伸縮範囲を示す S-19参照

注記：スラブ下り-100に伴うFG,FBは梁天端

-100とし2800とする

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

(仮称) プリオ101新築工事	project No	date
B1 基礎梁伏図	scale 1:200	drawn by
(株)観光都市計画事務所	S－8	



1 階床梁伏図 1:200

特記なき限り

スラブ … S1

…… 梁フカシ部分

壁 … 外壁 W15A、内壁 W15

( )内は1SLよりの段差を示す

…… CB15

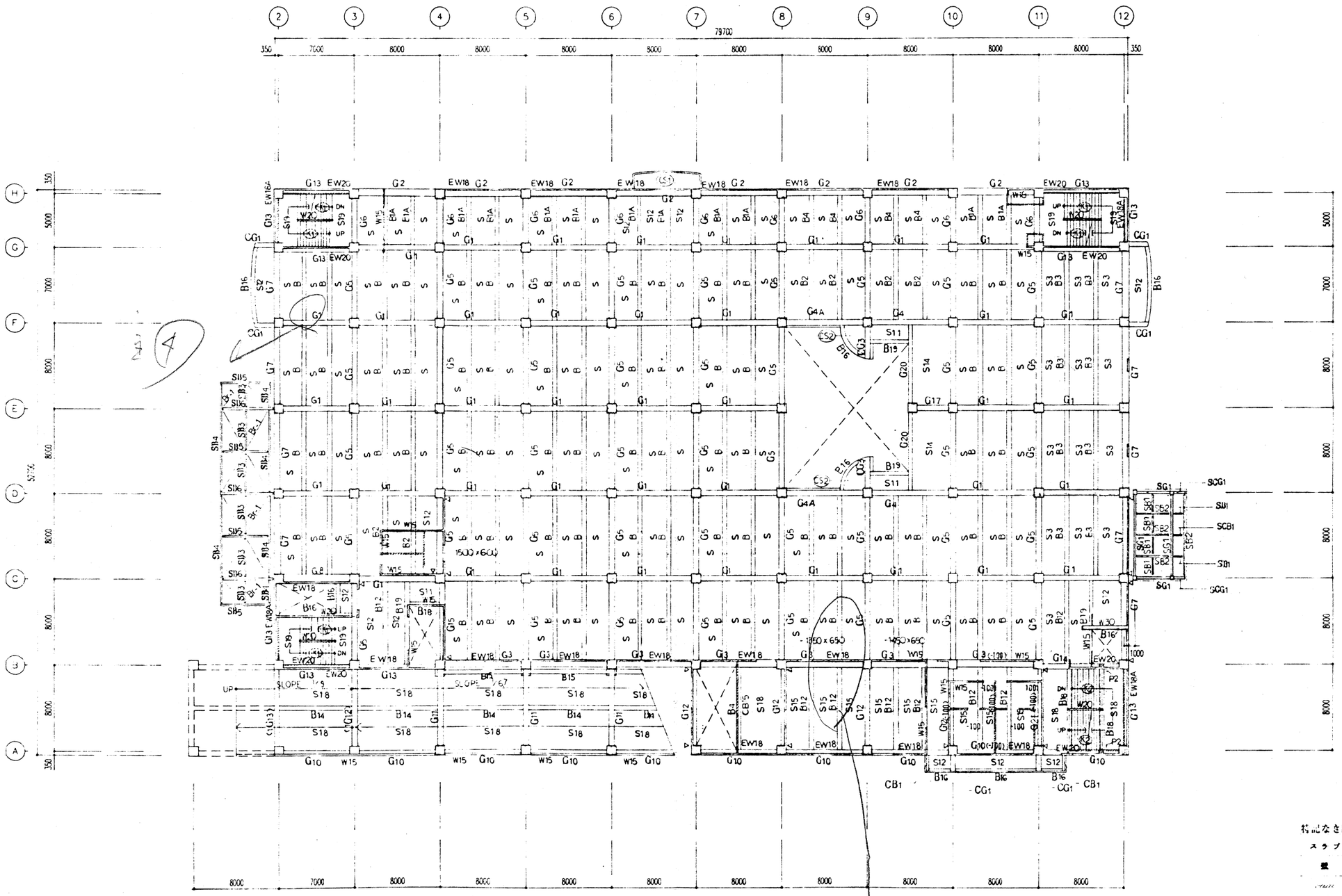
◁ EPは壁温度目地を示す

小梁 …… B1

註記：外壁上部には20mmの増コンとする

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

(仮称)プリオ101新築工事	project no	date
1 階床梁伏図	scale 1:200	drawn by
(株)観光都市計画事務所	S－9	



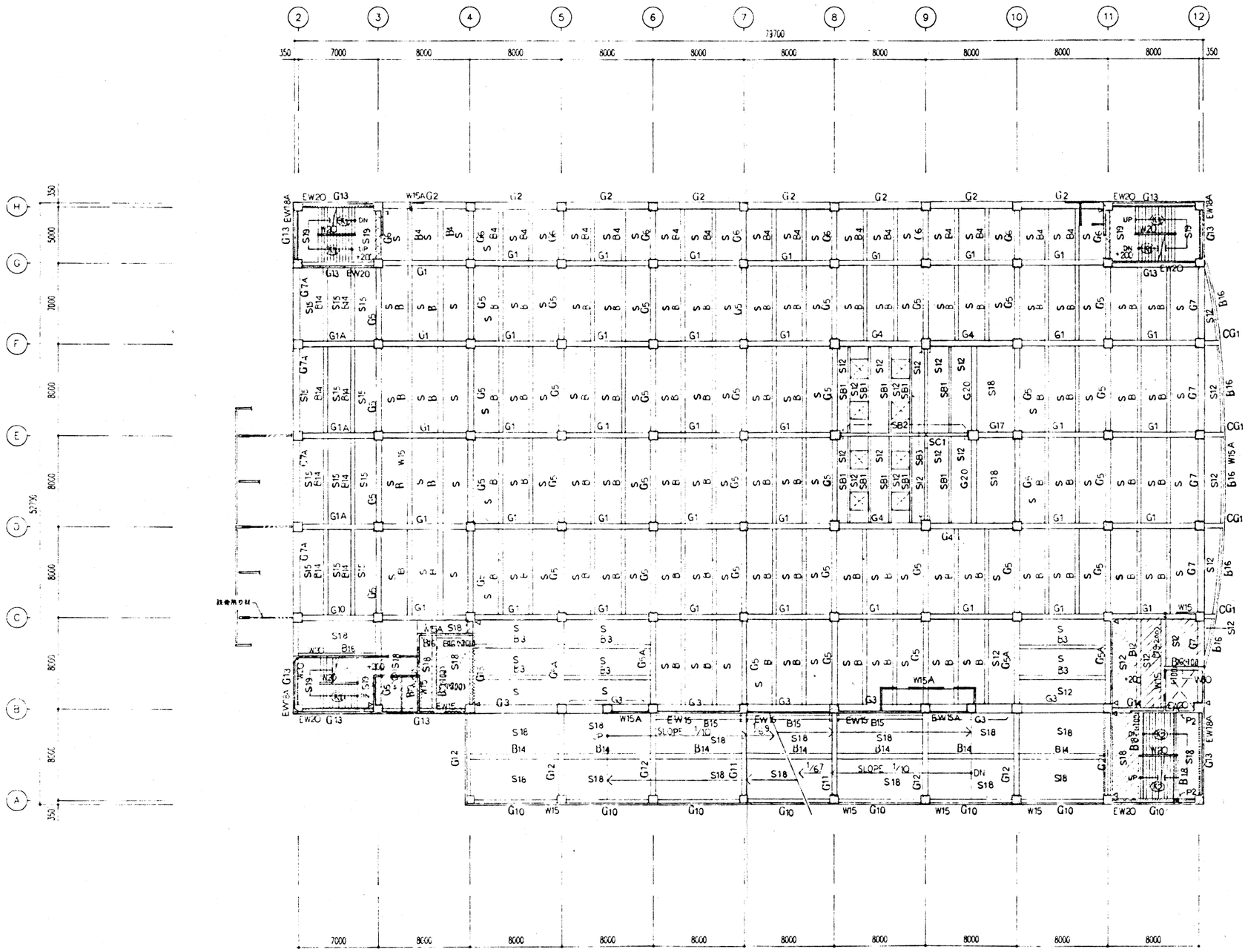
2 階床梁伏図 1:200

B1の上端を-Dくらい、B2の下端を-Dくらい バランスが悪い。
B2の下端を-Dくらい

特記なき限り
スラブ … S1
壁 … 外壁 W15A, 内壁 W15
… CB 15
◁ EPの設置箇所を示す
小梁 …… B1

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

(仮称) プリオ101新築工事	project no.	note
2 階床梁伏図	scale 1:200	drawn by
(株)観光都市計画事務所	S-10	



3 階床梁伏図 1:200

特記なき限り

スラブ … S2

[illegible] — SL+100

[illegible] … 梁フカシ部分

壁 … 外壁 W15A, 内壁 W15

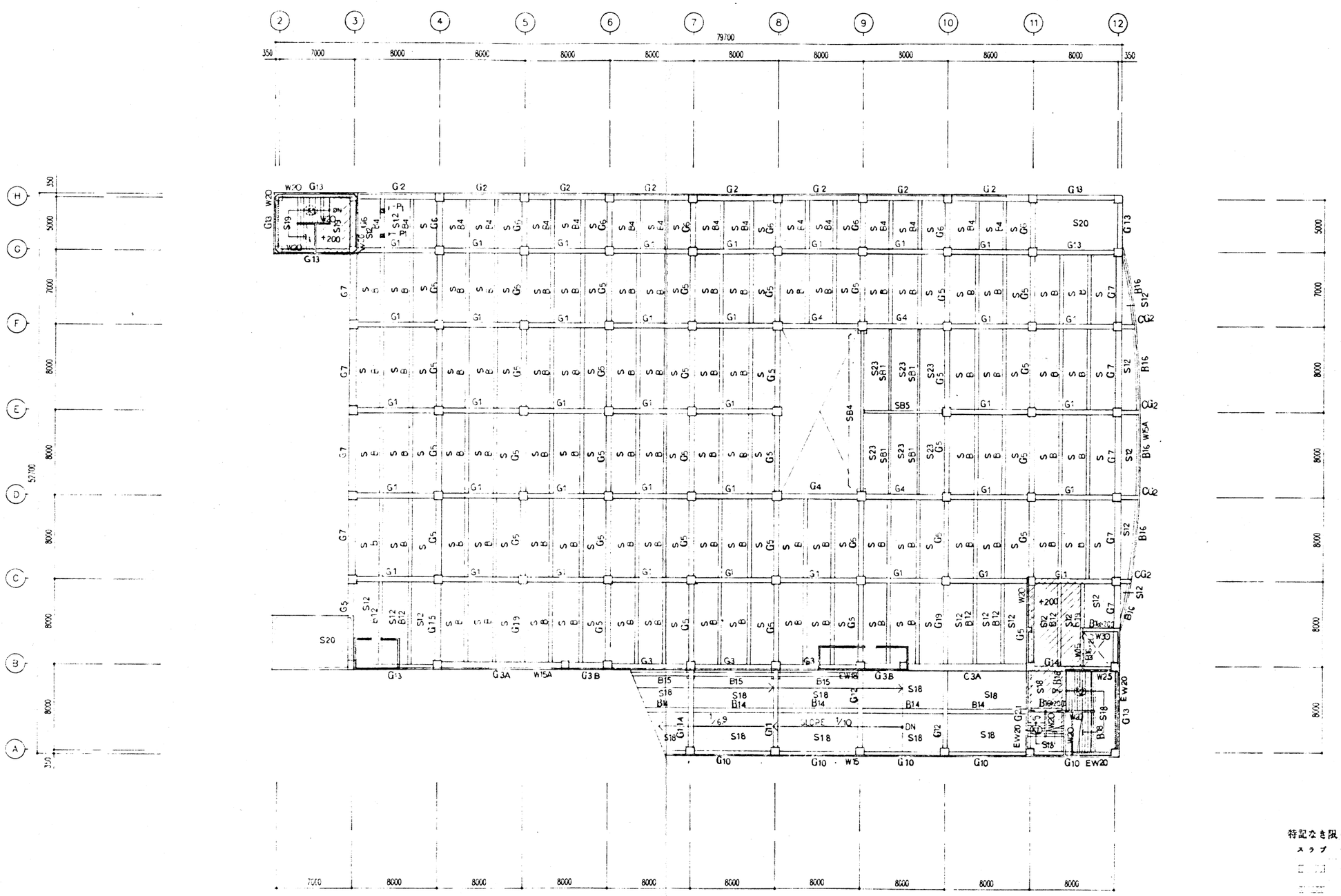
[illegible] … CB15

◁ 印は構造目地を示す

小梁 ---- B2

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

(仮称) プリオ101新築工事	drawn by	date
3 階床梁伏図	scale 1:200	drawn by
(株)観光都市計画事務所	S－11	



R 階床梁伏図 1:200

特記なき限り

スラブ … S2

□ □ … SL - 300

□ □ … 梁フカシ部分

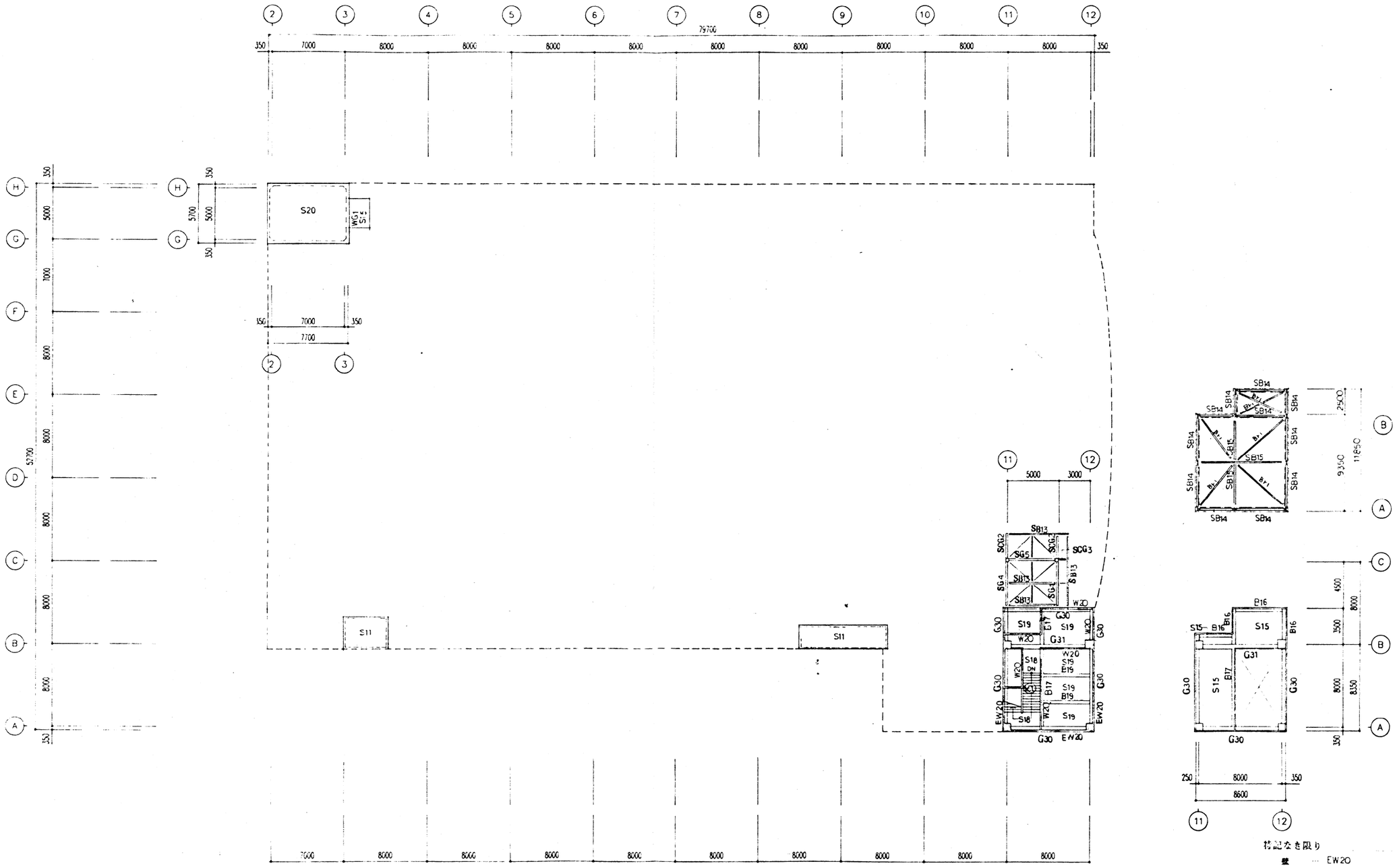
壁 … 外壁 W15A, 内壁 W15

… CB15

小梁 … B2

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

(仮称) プリオ101新築工事	project no.	date
R 階床梁伏図	scale 1:200	drawn by
(株)観光都市計画事務所	S－12	

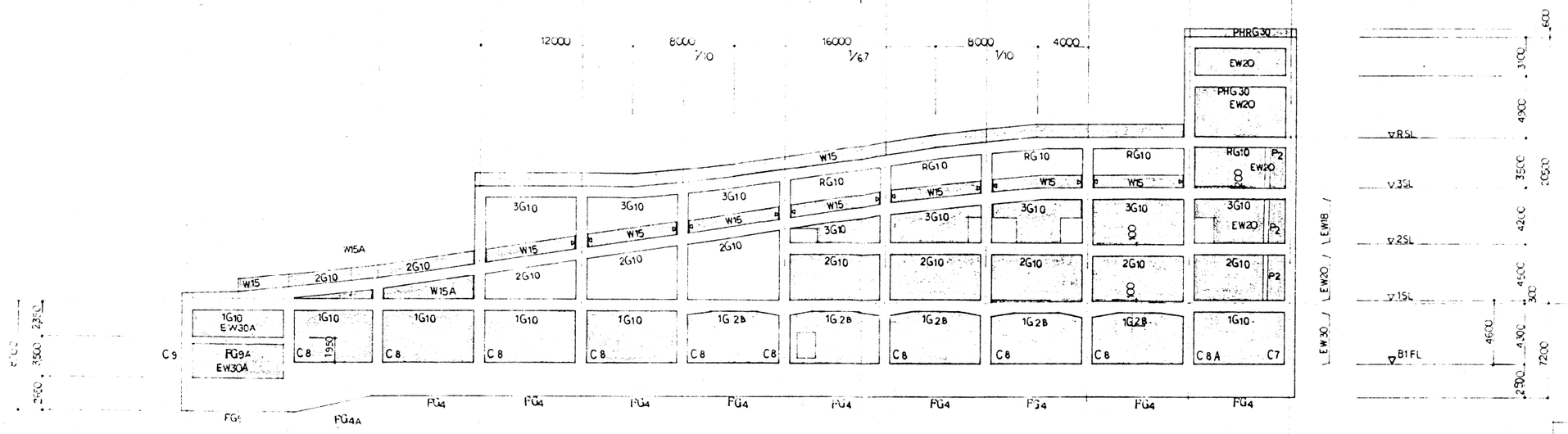


PHR 階床梁伏図 1:200

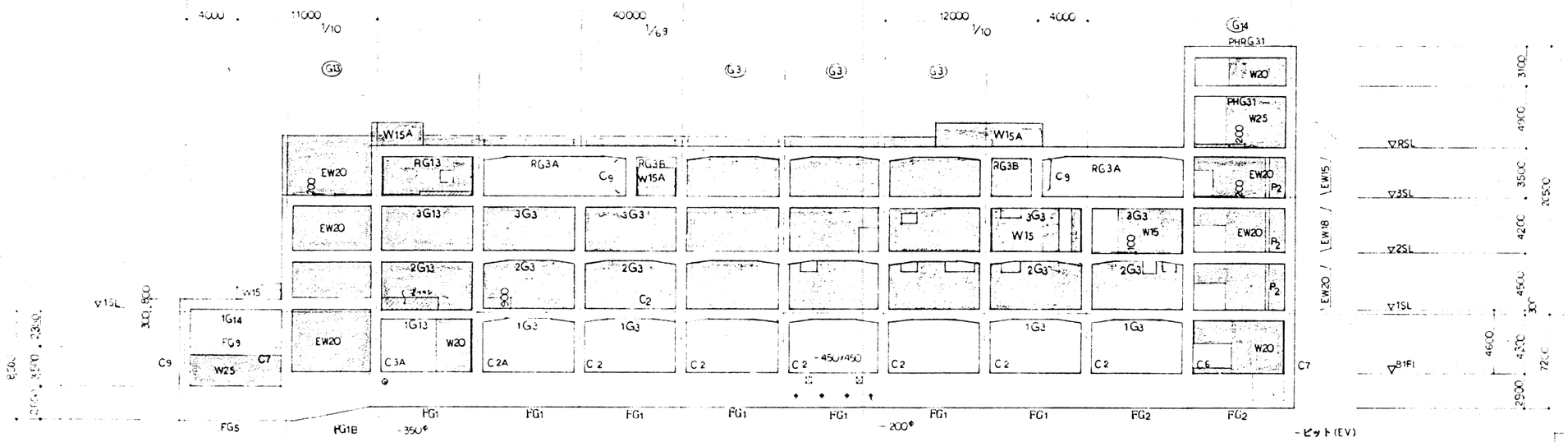
F7-323

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

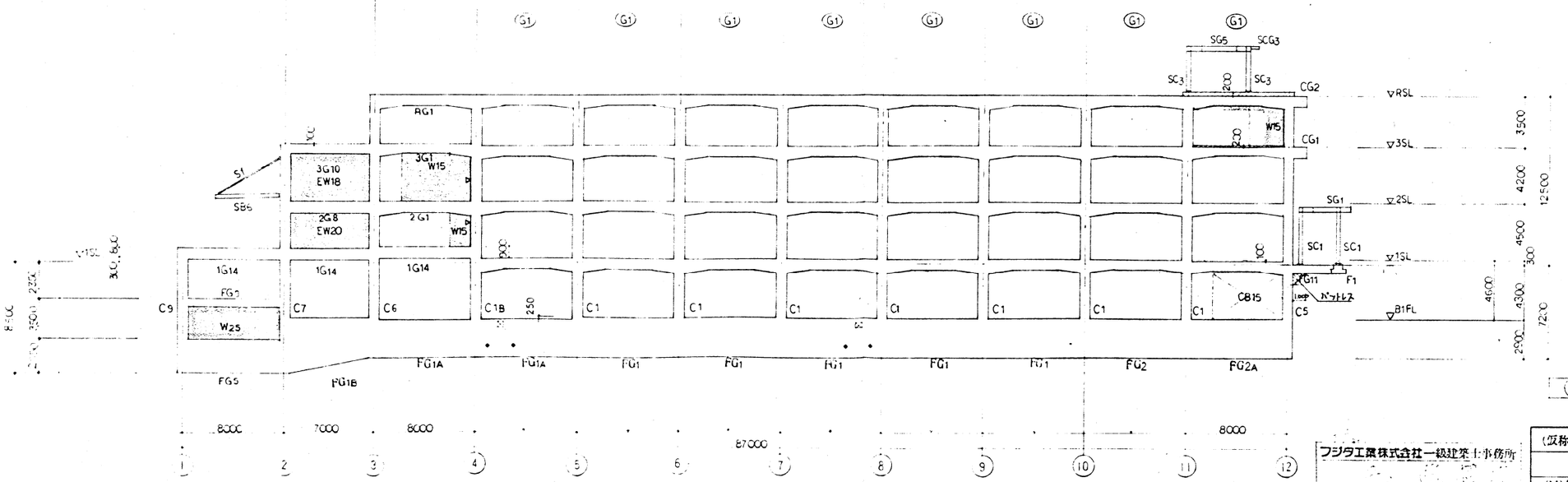
(仮称) プリオ101新築工事	drawing No.	date
PHR 階床梁伏図	scale 1:200	drawn by
(株)観光都市計画事務所	S — 13	



A 通り軸組図 1:200



B 通り軸組図 1:200



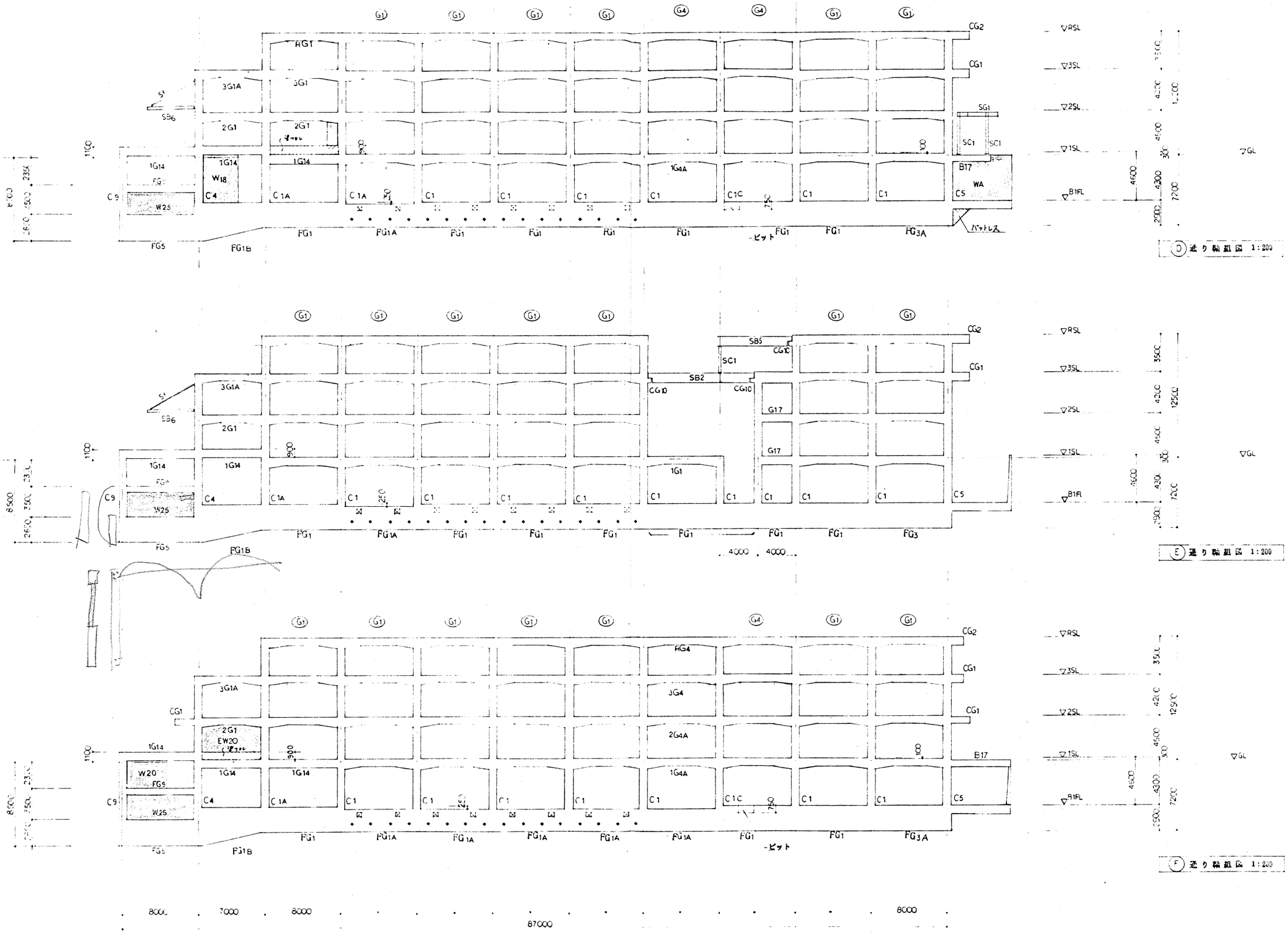
C 通り軸組図 1:200

特記なき限り

	壁フカシ部分
—又—	壁スリット位置

フジタ工業株式会社一級建築士事務所

(仮称) プリオ101新築工事	project no.	date
軸組図 -1	scale 1:200	drawn by
(株)観光都市計画事務所	S — 14	



特記なき限り

壁 W15

壁フカシ部分

壁スリット位置

(仮称) プリオ101新築工事	project no.	date
軸組図 −2	scale 1:200	drawn by
(株)観光都市計画事務所	S−15	

フジタ工業株式会社一級建築士事務所